



2 0 2 6 年 5 月 2 5 日

日 本 鉄 道 労 働 組 合 連 合 会

## 交運労協「第31回交通運輸政策研究集会」に参画! 安全・安心のサービスを提供し、魅力ある産業とするために



交運労協は5月18日、東京都・アートホテル日暮里ラングウッドにおいて「第31回交通運輸政策研究集会」を開催した。「交通運輸・観光サービス産業の次なるステージに向かって、私たちがなすべきこと」をテーマに掲げ、会場には総勢約180名が集まった。

J R 連 合 か ら は、内 局 役 員 お よ び 各 単 組 代 表 者 の 1 5 名 に 加 え、地 方 ・ 各 都 道 府 県 交 運 労 協 所 属 の 1 5 名 が 参 画 し た。

冒頭、交運労協を代表し、池之谷潤議長が「交通産業で働く労働者をめぐる環境は厳しいが、魅力ある産業の構築に向けて実りある集会にしよう」と挨拶。その後、国土交通省や観光庁の担当者から「第3次交通政策基本計画」「2030年度までの総合物流施策大綱」「第5次観光立国推進基本計画」について講義があり、名古屋大学の加藤博和教授から「だれもが気兼ねなく安心安全に『おでかけ』できる社会を支える交通運輸産業となるために」と題する基調講演が行われた。

2日目は、前日の講義テーマに沿って3つの分科会に分かれ、各構成員から活発な発言が行われた。「第3次交通政策基本計画」をテーマとする第1分科会では「鉄道の特性を発揮できていない路線については、より便利な移動手段を地域の皆さんと追求していく必要があるのでは」などの発言があり、助言者の加藤教授から「法定協議会を活用し地域住民の生の声と丁寧に向き合うことが必要。労組もできることがまだある」とのアドバイスがあった。

最後に、交運労協副議長（交運労協政策委員長）を務めるJ R 連 合 上 村 良 成 会 長 が、「集 会 で 得 ら れ た 知 見 を 踏 ま え、安 全 ・ 安 心 な サ ー ビ ス を 引 き 続 き 提 供 し、誰 も が 働 き や す い 魅 力 あ る 産 業 に し て い く た め、一 致 団 結 し よ う」と呼びかけた。